ホンネデールR錠

川路　新吉

ホンネデールR錠

「はぁ」
　静かな部屋にため息が響いた。
「どうしたんだサトウ」
　サトウが落ち込んでるとは珍しい。タナカが心配して声をかけた。
「いやそれがですね」
　周りをうかがうようにしてサトウがいう。
「妻がひどいんです」
「何だ？のろけ話か」
　タナカがあきれたように返すとサトウは憤慨していった。
「のろけ話なんてとんでもない。本当にひどいんです」
「なにがいったいどうひどいんだ」
　すこしためらった後、サトウは妻の悪口をいい始めた。
「最近あさちゃんと起こしてくれないんです。それにですねお弁当もちょっと手を抜くようになってしまって。もう嫌いになりそうですよ」
　サトウは本気で悩んでいるようだが、聞いているタナカにしてみれば、やはりのろけにしか聞こえない。投げやりにタナカは言う。
「びしっといっちゃえばいいじゃん」
　それが、とサトウは肩を落とした。
「怒らすと恐いんです」
　もうタナカはあまり興味を示していないが、サトウは滔々と続けた。
「この前も包丁もちだしたし･･･」
　延々と妻にたいするグチが続いた。
　そのグチが１０分ほど続いたころ、聞き飽きたタナカがそれを遮った。
「わかったわかった。おまえが奥さんに文句があるのは十分にわかった。いいものがあるからこれ使え」
　そういってタナカは小さな小瓶を机の引き出しから取り出した。なかにはしろい小さな錠剤が入っている。
「なんですか？これ」
「ホンネデール。これを飲むとついホンネをいってしまう薬だ。これ使って奥さんにぶちまけちまえ」
「なにも聞いてなかったんですか、先輩。そんなことしたら殺されちゃいますよ」
　ぶるぶるとサトウは首を振った。
「ちゃんと聞いてたよ。おまえのグチは。だから、奥さんの前でこの薬を飲むときは、ホンネが

でる薬、ただしホンネの真逆が口からでる薬だっていって飲むんだよ」
「ホンネの真逆ですか」
「ああ。そしたら、いくらひどいこといっても逆にとってくれて大丈夫だろ」

「先輩からおもしろい薬をもらったんだ」
　夕飯を終えて食器をキッチンに片づけたあと、サトウはおもむろに昼間もらった錠剤をカバンから取り出した。
「おもしろい薬？あやしい薬じゃないでしょうね」
　妻はいぶかしげな視線をサトウによこした。
　その視線にすこしひるみそうになる。
「なんでも、飲むとホンネがでてしまう薬なんだって」
「ホンネねぇ」
「うん。ただし、実際に口からでてしまうのはホンネの真逆の言葉なんだって」
　うさんくさいわね。と、妻は気味悪そうにして乗り気でないようだが、サトウは気にせず思い切って錠剤をのんだ。
　錠剤をのむとすぐにサトウの口がひとりでに動き出した。
「毎朝ちゃんと起こしてくれ」
「お弁当、もっと心を込めて作れ」
「おまえなんか嫌いだ」
「ちょっとあなた何いってるのよ」
　サトウのホンネを聞いて、妻がいきり立った。あわててサトウはとりつくろう。
「口からでてるのは真逆のことだから」
　それを聞いて妻はすこし落ち着いたようだ。
「真逆。そういえばそんなことをいってたわね。じゃ、今までのことは･･･、毎朝ちゃんと起こしてくれてありがとう、すばらしいお弁当をいつもありがとう、わたしのことが好きってこと？」
　サトウは、うんうんと激しくうなずいた。
「あら、そうなの。ありがとう」
　妻の機嫌はどうやらよくなったようだ。
　サトウは安心してホンネを続けた。
　結局、ホンネ、つまりグチは１０分以上つづいた。サトウの鬱憤はたまりにたまっていたようだ。
　しかし、そのグチがホンネの真逆であると思いこんでる妻はいくらグチを聞いても上機嫌だった。
「あなた、私のことをこんなにも愛してくれているのね」
　最後にはそういってサトウを抱きしめた。
　一方のサトウも、卑怯な手を使いはしたが、たまりにたまったものを面と向かって言うことが出来てすがすがしい気分だった。

「私もやってみようかしら」
　だから、妻が錠剤を手にとらないようにすることを忘れてしまっていた。
　あ、とサトウがいったときにはすでに妻は錠剤を飲んでしまっていた。次の瞬間、妻の口からホンネが飛び出した。
「うじうじうじうじ、小さい男よね。あなた」
　え？妻の顔は一瞬おどろいた顔になったが、すぐに優しい目でサトウを見つめた。
「ホンネと真逆のことが口からでるのよね、これ。ホンネの真逆が」
　すごみのある声音にサトウはただうなずくことしかできなかった。
結局、妻のホンネは１時間以上続いた。

ホンネデールR錠

http://p.booklog.jp/book/39804

著者 : 川路　新吉
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/bowmoq/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/39804

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/39804

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.